

発行—2012年8月31日

<http://gdtk.lib.gunma-u.ac.jp>

編集—群馬県大学図書館協議会「会報」編集委員会 前橋市荒牧町4-2 (群馬大学総合情報メディアセンター内) TEL.027-220-7167



群馬県立女子大学

Gunma
Prefectural
Women's
University

CONTENTS

- 研究会報告 平成23年度第2回大学図書館研究会 — 2
- <『図書館と学生との協働』アンケート>結果 — 10
- A K A G I News・編集後記 — 12

研究会報告

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修 (群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催)

○平成23年度第2回

テーマ：「図書館メディアとしての新聞 — その特性と活用 —」

日時：平成24年3月8日（木）13時30分～16時15分

場所：共愛学園前橋国際大学 1号館1101教室（チャペル）

参加者：28名（大学図書館17名、公共図書館8名、高校図書館3名）

講演：「図書館メディアとしての新聞 — その特性と活用 —」

（社）日本新聞協会 新聞教育文化部長兼NIE担当主管 長谷川 恵一 氏



会場の1号館遠景



長谷川講師



講演風景

<レジュメ>

図書館メディアとしての新聞 —その特性と活用—

（社）日本新聞協会 長谷川 恵一

図書館メディアとしての新聞 —その特性と活用—

図書館が収集・提供する情報メディアのひとつとして、
他メディアと比較した新聞メディアの特性、
およびその利活用方法について

平成23年度第2回群馬県大学図書館協議会
大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修

・自己紹介

社団法人日本新聞協会（4月から一般社団法人に移行）とは、新聞105、通信4、放送23社で構成する自主規制団体。東京都千代田区の日本プレスセンターに事務所を置く

日刊新聞発祥の地・横浜で日本新聞博物館を運営 併設施設として新聞ライブラリー NIE全国センターがある

専門図書館協議会加盟

- ・ 社団法人日本新聞協会 資料室
東京都千代田区内幸町2-2-1
日本プレスセンタービル8階
- ・ 日本新聞博物館 新聞ライブラリー
神奈川県横浜市中区日本大通り11
横浜情報文化センター4階

日本新聞協会 資料室



新聞ライブラリー (日本新聞博物館併設)



昨年末(2011年12月24日)図書館にとって 重要な閣議決定がなされた

- 学校図書館図書整備5か年計画の中で、12年度より学校図書館への新聞配備費用として15億円(5か年で75億円)を計上
 - これはすべての公立小・中学校と特別支援学校に1年間1紙を配備できる額
- 学校図書館担当職員(学校司書)の配置についても150億円が計上された
 - これは小学校9800人、中学4500人を配置できる額
- ただし、「地方財政措置にかかる要望」であるため実効性は未知数

ここに至る道のり

- 2009年9月 NIE実践指定校を対象に
 - 「学校図書館への新聞配置状況に関するアンケート」実施
 - 小学校35%、中学校38%、高校86%だった
- 2010年1月 文部科学大臣あてに意見書提出
 - 新聞配置の実態を悉皆調査すること
 - 学校図書館の環境整備と新聞配置を求めた
- 2011年6月 文科省が「学校図書館の現状に関する調査」結果発表
 - 小学校17%、中学校15%、高校90%(新聞配置率)
 - 小学校63%、中学校60%、高校81%(司書発令状況)
- 2011年7月 文部科学大臣あてに意見書提出
 - 学校図書館への確実な新聞配備
 - 新聞活用研修の充実を求めた

「学習指導要領に新聞活用が盛り込まれたということは、小・中・高校など約3万9000校のすべての学校で新聞が活用されるということ。そのためには、すべての学校に教材が行き渡るよう図書館に新聞を配備することが不可欠」

今、新聞が注目されている理由 「学習指導要領の改定」

- 2008年 新学習指導要領告示(言語活動の充実)
- 2011年4月 小学校で全面实施
- 2012年4月 中学校で全面实施
 - 言語活動を充実させるため新聞活用に言及
 - NIEがすべての先生にとって必須に
 - 新聞を読む習慣がない先生にはできない

エヌアイイー
NIE(Newspaper In Education)
＝教育に新聞を とは何か

最近ではNEWS IN EDUCATIONとも

世界74か国で実践されている新聞活用教育
読解力の向上のため学習指導要領に盛り込まれた日本
国によっては識字教育に使われ、メディアリテラシー教育にも
民主主義社会を支える有権者を育てる

日本では新聞協会が中心となり1985年からスタート

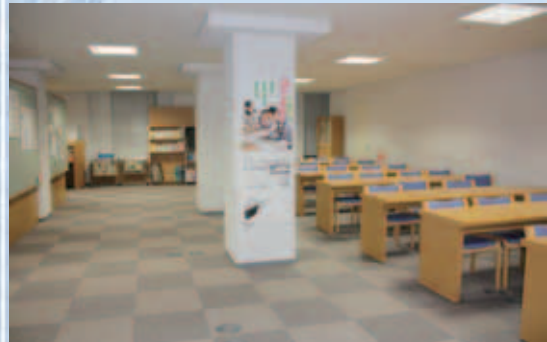
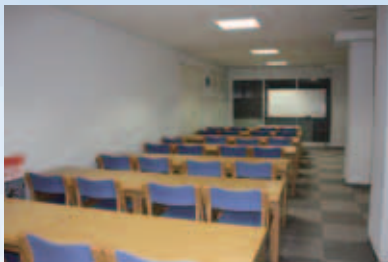


- 実践指定校制度(542校)
- ガイドブックの発行
- 46都道府県に推進協議会
- 年に一度、全国大会を開催

NIE全国センター



模擬教室



NIEとは何か

- ①新聞機能学習 ②新聞活用 ③新聞作りが3要素
- ①大学NIE ②地域NIE ③ファミリーフォーカスなどがある
 - 公立図書館で、ぜひ地域NIEの取り組みを
 - 大学図書館で、ぜひ大学NIEの取り組みを



＝実践事例紹介(2011年度)＝
東京学芸大学附属世田谷中学校1～3年 国語

- 新しい学習ツールとしての新聞に出会わせる
- 新聞を継続的に読み、読み方についてスキルを取得する
- 論理的な文章を読みとる力の向上
- 必要な情報を選び取る力の向上
- 情報を活用する力の向上
- 情報を効果的に発信する力を身につける

＝実践事例紹介(2011年度)＝

- 生徒個人がスクラップを継続して行うことでこうした力を身に付けた
- 班に分かれ、各メディアのメリット・デメリットを議論
- いっしょに読もう！新聞コンクールへの応募
- 3年では東日本大震災を報じたコラムを使って松尾芭蕉が歩いた「奥の細道」がどうなってしまったかを学習

今年度表彰式 NEWSPARK



＝実践事例紹介(2011年度)＝

- 図書館司書が図書館の新聞を1週間分ならいつでも読めるように配置
- 記事を探す際のアドバイザー役も務めた
- たまった新聞を図書委員の生徒とともにスクラップ
- 授業の前に人数分のコピーが揃うなど「新聞の配置と整理に図書館の絶大な協力」がなければ実現できなかった。
- 課題
 - そうした体制がない学校でのNIE実践は無理？

新聞の資料としての媒体特性

日本最古の新聞論争
 日刊新聞であるかないか
 新聞博物館が横浜に立地している理由は、日本
 最古の日刊新聞が横浜毎日新聞だったため
 官板バタビア新聞などは日刊でなかった
 不定期刊の瓦版は新聞の前身ではない

新聞の資料としての媒体特性

1日2回刊行(朝・夕刊)は、配布する印刷物
 としてこれ以上早いサイクルは望めない

新聞にも、週2回刊、週刊、旬刊紙がある

新聞の資料としての媒体特性

- 図書館において1日に2回も到着する新着資料は他にない
- 複数紙を購読すると1日2回×購読紙数の資料の入れ替えが発生
- 夕刊が届けば朝刊の商品価値はなくなる。キオスクで朝・夕刊が並べて売られることはない(ただし、資料価値は残る)

新聞の資料としての媒体特性

そこで、
 新聞の専門図書館である
 新聞協会資料室と新聞ライブラリーでは
 独自の配架方法を採用した

月単位配架方式

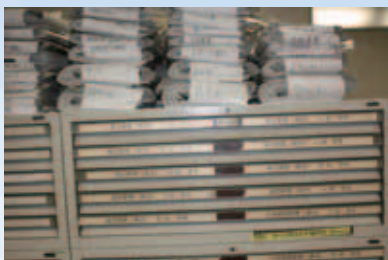
月単位配架方式のメリット

- ①記事を継続して追うことができる
 =連載記事、解説記事・用語解説
- ②「あとから読み」のニーズに対応できる
- ③検索のし易さ
 =1ページずつページを繰る以外の検索方法がない
- 検索が容易でないということは、収集資料としては致命的なこと
- 分量が多すぎて利用困難
- こうしたデメリットを最小にするための配架方法が、月単位配架

新聞協会資料室の概要

- 日本新聞協会職員、会員社のための資料室
 - 面積 : 115㎡
 - 図書 : 18500冊
 - 雑誌 : 190誌
 - 新聞 : 170紙
- 閲覧席=4席、利用者端末=1席、専任職員1名(司書資格保有)
- 十進分類法ではなく独自分類を使用

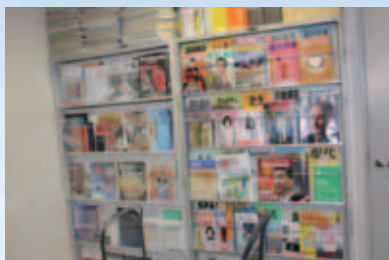
資料室 新聞資料



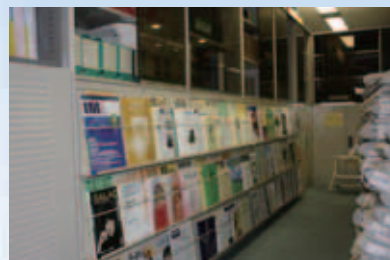
5紙3段キャビネを10セット



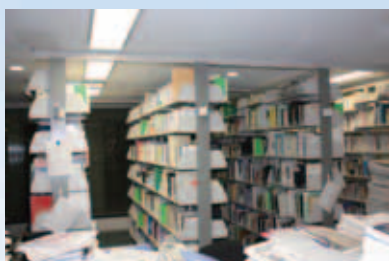
雑誌書架



定期刊行物と新聞



独自分類で配架した開架書架



0番代「総記」、100番代「マスコミ」

- | | |
|-------------------|--------------------|
| • 010 図書館・情報管理 | • 110 コミュニケーション理論 |
| • 020 書誌・索引・目録 | • 120 社会的責任 |
| • 030 百科事典 | • 130 ジャーナリズム |
| • 040 辞書・辞典・一般用語集 | • 140 マスメディア産業論 |
| • 050 年鑑 | • 150 世論・キャンペーン・宣伝 |
| • 060 名簿・人名録 | • 160 社会心理 |
| • 070 一般論文集・随筆集 | • 170 情報化社会 |
| • 080 一般叢書・全集 | • 180 大衆文化 |
| • 090 その他 | • 190 その他 |

200番代新聞、300番代出版

- | | |
|-------------|-------------|
| • 210 社会的責任 | • 310 社会的責任 |
| • 220 新聞経営 | • 320 出版経営 |
| • 230 新聞編集 | • 330 編集・企画 |
| • 240 新聞製作 | • 340 印刷 |
| • 250 新聞販売 | • 350 造本 |
| • 260 新聞広告 | • 360 流通・販売 |
| • 270 各種新聞 | • 370 出版広告 |
| • 280 通信社 | • 380 各種出版物 |
| • 290 その他 | • 390 その他 |

社内LAN「資料室の窓」で職員に新着図書や新着雑誌の案内を行っている

最新の雑誌記事から

- 池上彰のそこからですか！？(53) 米大統領記者会見の裏側は
- 野球の言葉学(167) 清武英利「コーチを守るといことは選手を守ることだと思う」ジャーナリスト／鷲田康
 - ワイド ところがドココイ生きている
*清武巨人軍前GMサンジャボから熱烈ラブコール
*狙われた退職金元日経社員送別会後の悪夢の2日間
(「週刊文春」12月8日号)
 - ワイド 真相をミタ
*大王製紙御曹司が生涯背負う85億円「自己破産」でも「借金チャラ」にならない無間地獄
(「週刊ポスト」12月9日号)

事務局のバックヤードとして

- 東日本大震災の資料として、3月11日から1ヶ月間分の原紙を保管
- 以下の新聞は、震災発生から6ヶ月分保管
 - 岩手日報、河北新報、福島民報、福島民友、新潟日報、静岡、福井、中国、高知、熊本日日
- こうした資料を利用して
- 「NIEガイドブック特別号 授業提案 3. 11 大震災 新聞で考える」
- 「東日本大震災・原発事故と報道」が作成された

棚の外にあふれる新聞



NIEガイドブック 震災編



参考～国会図書館の 被災地域ウェブサイトの保存

- 東日本大震災に関する記録を後世に伝えるため、被災地域の自治体ウェブサイトを重点的に収集
- 久慈市（岩手県）石巻市、多賀城市、仙台市（宮城県）南相馬市、福島市（福島県）水戸市（茨城県）

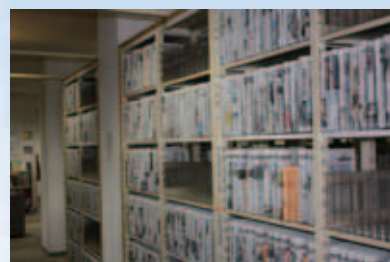
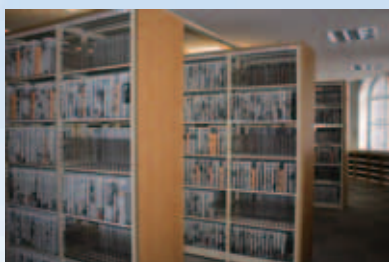
新聞ライブラリー



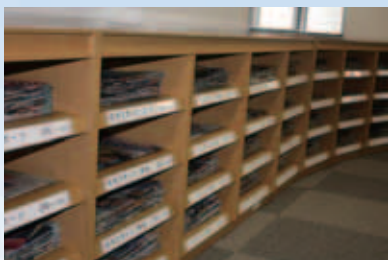
新聞ライブラリーの概要

- 広く一般に開かれた無料施設（新聞博物館は有料施設）
 - 面積：200㎡
 - 図書・雑誌：12000点
 - 新聞：162紙 4か月分
- 縮刷版：21タイトル（2000年の開館以降）
- マイクロ：100タイトル 58996リール
- オンラインDB：日経テレコン、Gサーチなど50社
- 閲覧席＝25席、利用者端末＝4席、マイクロリーダー＝5台
職員2名と7名の業務委託でローテーション勤務（司書資格保有者2名）

新聞書架



スポーツ紙と子ども新聞



新聞があるだけでこれだけのことが分かります

- 全国の新聞が読み比べられます
- 幕末・明治期から現在までの新聞はマイクロフィルムで所蔵しています
- 掲載日が不明でも、ある事柄に関する記事を探せます
- 新聞の黎明期から現在までの歴史が調べられます
- 最近の新聞界の活動や動向を知ることができます
- 新聞に関する各種データを調べることができます
- 子どもたちも新聞について楽しく学べます

イベント等

- 新聞博物館での企画展関連図書
- 夏休みの自由研究サポート
- 教材としての新聞

－参考－[NIE全国センター](#)

新聞ライブラリー 利用者10万人突破

2月14日付「新聞協会報」

- 新聞博物館(ニュースパーク、横浜市)に併設されている新聞ライブラリーの利用者が2月7日、累計で10万人を突破した。オープンは2000年10月。
- 10万人目は神奈川県藤沢市在住の兼中裕美さん。日本大の教員で、学芸欄や文化欄の劇評を研究しているという。西野文章館長から認定証と記念品が贈られた。
- 新聞ライブラリーは、新聞協会加盟社が発行する日刊紙を原紙やマイクロフィルム、CD-Rなどで収集・保管し、無料で一般公開している。

国会図書館との新聞マイクロ化事業

- 新聞協会全社とではなく任意の社と新聞マイクロ懇談会を結成して行う
- (かつては、国会でマイクロを制作していたため加盟社数に制約があった)
- 懇談会加盟社(55社)は、原紙をマイクロ事業者に送り、マイクロフィルムのネガを作成する。費用は国会5対新聞社1。ネガは国会図書館に寄託。そのネガからポジフィルムを3部作成し、国会図書館、新聞社、新聞ライブラリーで保有。ポジ作成費用は保有者が負担するという仕組み。

奥がマイクロリーダー 手前がDB端末



新聞協会加盟新聞社

- 新聞協会資料室
- 新聞ライブラリー
- 国会図書館(ニチマイ)

－ 資料化のため毎日送付

日本の新聞の特殊性

世界の中の日本の新聞(各国統計のため2009年)

総発行部数

1位	中国	1億1千78万部
2位	インド	1億 994万部
3位	日本	5,044万部
4位	アメリカ	4,857万部
5位	ドイツ	1,975万部
6位	イギリス	1,636万部
7位	韓国	1,602万部
8位	フランス	976万部
9位	ブラジル	891万部
10位	イタリア	887万部

成人1000人当たり部数

1位	香港	615部
2位	スイス	549部
3位	ノルウェー	538部
4位	スウェーデン	514部
5位	フィンランド	488部
6位	クウェート	485部
7位	日本	459部
8位	オーストリア	404部
9位	韓国	397部
10位	シンガポール	376部

これは何の順位でしょう？

- 1位	上海	556点
- 2位	韓国	539点
- 3位	フィンランド	536点
- 4位	香港	533点
- 5位	シンガポール	526点
- 6位	カナダ	524点
- 7位	ニュージーランド	521点
- 8位	日本	520点
- 9位	オーストラリア	515点
- 10位	オランダ	508点

WAN-IFRA

- 「新聞はいまだに成長産業である」
- 先進国で進む新聞離れ
 - 詳しく見ると、英米での紙離れが著しい
- 新興国では刊行ラッシュ
- 中国、インド、ブラジルの躍進
- 日本は先進国型だが、減率はわずか
 - = 世界に冠たる戸別配達制度

売り上げ減に悩む書籍・CD

- 書店の数は半分以上に
- 書籍流通網の弱体化が売り上げの減少に
- 音楽CDは、レコード店からCDショップに、そしてダウンロードへ
- こうした流通の変化が売り上げを落とした

パッケージから個別コンテンツへ
↓
メディアからプラットフォームの時代へ

- CDショップに行かなくても音楽が聴ける時代に
- 書店に行かなくても本が読める時代に
- 定期購読しなくても新聞が読める時代に
↓
- 図書館から電子図書館の時代へ？

フローデータとストックデータ

- スtockデータの収集と提供が図書館の社会的役割？
- コンテンツがデジタルデータ化すれば、個人図書館が可能であり、図書館の役割は社会資本としてのコンテンツ保存に？

活字の未来をともに考える



御清聴ありがとうございました

- 社団法人日本新聞協会
 - 新聞教育文化部NIE担当

電話: 03-3591-4410
メール: hasegawa@pressnet.or.jp

<『図書館と学生との協働』アンケート>結果

(実施日：H12.6.26 対象：21加盟大学等 回収率：71.4%)

【質問1】学生の業務サポートを実施していますか。

はい	6
いいえ	10

※職員の業務補助(アルバイト)として採用

※以前、夜間時間帯に学生アルバイトを活用していたと聞いているが、現在は行っていない。

【質問2】学生サポーター導入の理由は何ですか。

図書館の人手不足を補うため	4
学生支援のため	1
司書過程実習	0
その他	2

- ・図書館利用活性化のため
- ・夜間開館防犯のため

※大学院の開設に伴う夜間開館時に、女性職員が1人にならないようにという学園側からの配慮から導入。

【質問3】採用形態はどのようなものですか。

アルバイト(有料)	4
ボランティア(無料)	1
その他	1

- ・お礼(謝金)という形を取っている

【質問4】業務形態はどのようなものですか(人数、時間数、日(回)数/月)

群馬医療福祉大学図書館	1人	2時間/日	平日
	※19:30～21:30の2時間/2名の男子学生と契約(交替勤務)		
群馬県立県民健康科学大学 附属図書館	3人	6～8時間/日	・1～2日(回)数/月
	※図書館員(正規職員×1、嘱託職員×2、臨時職員×1)とペアで土曜日に勤務		
群馬大学 総合情報メディアセンター図書館	6人	4 or 8時間/日	8日(回)数/月
	※各館6人ずつ、2人1組、平日:4時間、土日:8時間(日は本館のみ)		
上武大学附属図書館 分館	22人	3.5時間/日	1日(回)数/年
	※昨年度の選書ツアーの参加人数及び実施時間		
高崎健康福祉大学図書館・分館	7人	-	-
	※授業の合間を利用して1回1時間30分、週に2日以上できる学生		
東洋大学附属図書館 板倉図書館	※平日は最多で2人で最大5時間(履修状況により人数・時間は異なる)、土曜日は、午前・午後それぞれ1人ずつで4時間		

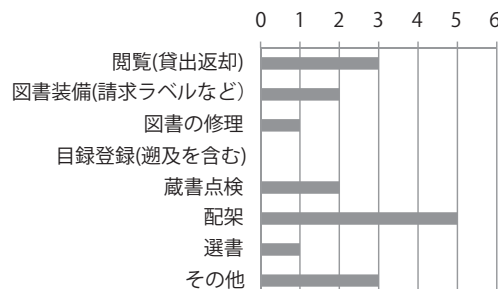
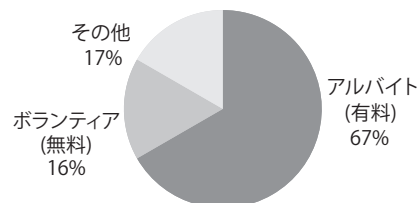
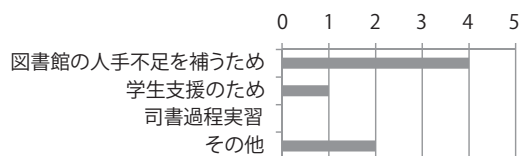
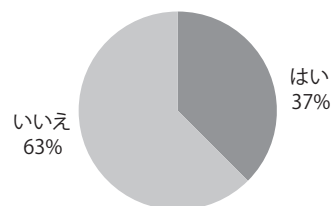
【質問5】業務内容はどのようなものですか(複数選択可)

閲覧(貸出返却)	3
図書装備(請求ラベルなど)	2
図書の修理	1
目録登録(遡及を含む)	0
蔵書点検	2
配架	5
選書	1
その他	3

- ・開館・閉館業務
- ・防犯/館内清掃/閉館準備/その他、雑務の補助等
- ・書架整理

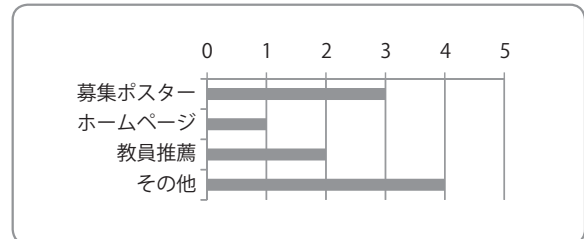
選書について

※夏休みに教職員と一緒に書店へ出向き、図書を選書。2009年より実施。



【質問6】学生の募集はどのように行ないましたか。

募集ポスター	3
ホームページ	1
教員推薦	2
その他	4



- ・学生アルバイトの推薦
- ・事務局推薦
- ・図書委員会による募集
- ・司書過程の授業で呼びかけ

教員推薦について

※専攻別の実習が多い大学なので、実習に影響が少ない新2年生から選出。

大学近隣で独り暮らしをしている学生を中心に、クラス担任等から推薦していただき、図書館サイトで面接した後、学園サイドに報告。

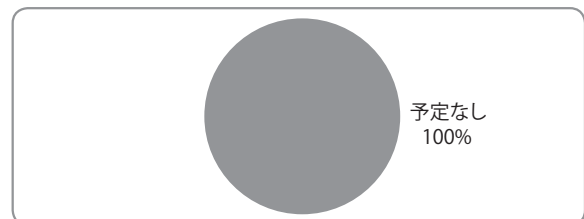
【質問7】実施してみてお気づきの点、やってほしい業務内容などありますか。

- 実習が多い大学なので、依頼できる学年・専攻が限られてしまう
- 実習の都合上、継続して(2年以上)依頼ができないため、次に繋がらない
- 夜間開館時の対応であるため、依頼できる業務が少ない
- カウンター越しより近くなるので、学生の動向が分かり易くなった
- 短時間だと、なかなか作業を覚えてもらえず、毎回教えるのに手間がかかる
- 学内だからか、学生の考え方が甘い(遅刻や勤務態度)
- 図書館の守秘義務を守ってほしい
- アンケート結果等を見ると参加者の満足度は高い。他の学生も学生選書に関心を寄せて、よく利用している。ただ、学生たちが多忙なため(部活、アルバイト、ボランティア等)参加者の確保が難しくなっている
- アルバイトではあっても大学職員の一人である自覚の欠如した学生が時々いる
- 特に土日など、2人1組の調整がつかず職員が出勤しなければならない時が間々ある

※質問1で「いいえ」だった館への質問

【質問8】今後、学生サポーターの採用を予定していますか。

予定あり	0
予定なし	10
検討中	0



※ボランティアとして協働できればよいと思うが、具体的な検討はしていない。

【自由記述欄】「図書館と学生の協働」について自由にご記入ください。

- 学生との協働を幅広く行えたらよいと思っているが、まだ緒についていない
- 学生選書(選書ツアー)のみ、継続している
- 図書の整理の際などは、ボランティアとして学生に協力してもらえると大変助かると思う
- 働くという意識をしっかりとってもらいたい
- たとえば選書ツアーや企画展示など、学生と一緒に取り組むことにより、図書館に関心を持ってもらうきっかけや一助になればよいと考える
- 以前は“図書館ボランティア”に名乗りを上げてくれる学生に図書整備や書架整理を依頼していたが、授業科目としての「ボランティアⅠ・Ⅱ」のあり方が変化したため、“図書館ボランティア”自体がなくなってしまった(ボランティア実施時間の確保が目的だったと思われる)
- 図書館に興味を持って、自発的に空き時間にボランティアをしに来てくれていた時期は、学生と一緒に運営している感じが強かったが、活動時間が昼ではなく夜になると依頼できる業務も異なり、協働という感じではなくなってしまったように思う
- ボランティア活動に対し単位認定する科目(本学の「体験的科目」等)との連携も検討したい
- 学生による学生図書委員会を設置。その主な業務はゼミ別に学生推薦図書を提示してもらい選定する

AKAGI News

●「高頻度閲覧統計機能」の追加

昨年12月、地域共同リポジトリAKAGIが構築されて以来、利用統計としては、システム（DSpace）が提供する月次レポートとして、ログイン、検索などの処理毎の回数、20回以上閲覧されたアイテム、などの統計データしか得られませんでした。この度、6/15に追加された標記機能により、月別、資源タイプ別（コンテンツ種別）（NIIタイプ別）、アイテム別、コミュニティ別（参加機関別）の利用統計（ダウンロード数）が利用可能となりました。

●統計用ログ・ファイルのコンバート

「高頻度閲覧統計機能」では、2012年5月から7月までの統計しか取れませんでした。8/6、8/7に行われた作業により、AKAGIへの再構築以前（GAIR）のログ・ファイルも含め、2010年12月から2012年4月のデータが追加され、8月現在では、「2010年12月～2012年7月」の利用統計が確認できます。

※統計の利用は、トップページ左側「アクセス状況」→「アイテム別高頻度ダウンロード文献」へとお進みください。



編集後記

本協議会の事業のひとつ大学図書館研究会の開催も、平成6年の講演会「学術情報センターの現状と今後」の開催以来、9/11、高崎健康福祉大学で開催される研究会で丁度25回を数えます。本協議会も大学図書館研究会の開催を含めた事業展開により、今後も図書館職員皆様のスキルアップにつながるような、カレントな話題を引き続き提供していけたらと思っています。